

祝 辞

本日ここに、電気通信大学創立百周年記念式典が盛大に挙行されますこと、誠に喜ばしく、一言お祝いの言葉を申し上げます。

電気通信大学は、大正七年に社団法人電信協会管理・無線電信講習所として創設され、その後、幾多の変遷を経て、昭和二十四年に電気通信大学として発足、今日に至っております。以来、社会の要請に対応して、古くは日本初の「電波時計」、最近では、国産初の「筋電義手」の開発など情報理工学分野で多くの卓越した学問的成果を挙げるとともに、五万六千名を超える優れた人材を広く各界に輩出され、我が国の発展・興隆に多大な貢献を為してこられました。このような輝かしい伝統と特色を有する電気通信大学が、百年と長い歴史を積み上げてこられたのは、福田ふくだ 喬たかし学長をはじめ、歴代の学長、教職員、卒業生並びに御関係の皆様のごこれまでのため、御努力のたまものであり、深く敬意を表する次第であります。

今日、我が国はかつてなく大きな社会変革の期にあり、サイバー空間とフィジカル空間が高度に融合した「超スマート社会」(Society 5.0)の実現に向けた取組が加速しております。中央教育審議会では、到来する新しい社会に対応するために、こうした背景を踏まえて高等教育の将来構想について総合的な検討を行い、十一月二十六日に答申を取りまとめたところでございます。

そのような中において電気通信大学は、これまで培ってきた情報理工学分野における知を存分に生かし、IoT、ビッグデータ解析、AIなどのプラットフォーム技術から、ロボット、ナノテクノロジー、光・量子などのコア技術まで、時代のニーズに対応した先進的な研究を進めておられます。また、東京外国語大学及び東京農工大学と共に、それぞれの強み・特色を生かした、文理協働型の博士人材養成という新しい視点の共同専攻を来年度に開設するなど、文系理系などの分野や大学の枠組みにとられない柔軟な教育プログラムという、まさに時宜にかなった新しい取組を打ち出しておられます。こうした取組を通じて電気通信大学が次の百年に向けて、高等教育研究機関における先進的な研究者育成等の先導役として、より一層の成果を社会に還元されることを期待しております。

最後に、本日御臨席の皆様方におかれましても、引き続き、電気通信大学に対し、より一層の温かい御支援、御協力を賜りますようお願い申し上げますとともに、電気通信大学、並びに御臨席の皆様の更なる御発展を心から祈念し、お祝いの言葉とさせていただきます。

平成三十年十二月八日

文部科学大臣

柴山 昌彦